Sr. M.
Caix

Nº 165 SEMANARIO DE SÃO PAULO 8 DE JANEIRO DE 1925

聖州新報

社主兼編輯人 香山六郎
発行所 バウル市ピタン街 聖州新報社

ROKURO KOMYAMA
REDACTOR DE SEMANARIO DE S. PAULO
CAIXA POSTAL 94
RUA PIRATININGA
BAURÚ
EST. DE S. PAULO
BRASIL

企業の二三

在伯邦人の生活も所謂出稼を善しとして、それを実現する人々が昨今ボツ〳〵と増え出した。かうして小金を持て久方振に故郷の風にあたり、郷里の水を飲む人々を歓迎して

●バウル市の物價

プロ階級は大困り

貧乏な人々が日々生活のため所謂アルマゼンから月拂又は三ケ月拂で持ってくる物價である。　現金拂と五分も違はない処に伯國内地商賣の妙味がある。

コーヒ	一キロ	三、二〇〇
塩	一キロ	二、〇〇〇
醋	一ビン	、九〇〇
白砂糖	一キロ	、七〇〇
マカロン	一キロ	、九〇〇
バーニヤ	一錐	九、〇〇〇
セボーラ	一キロ	一、二〇〇
麥粉	一キロ	一、四〇〇
精米	十キロ	一四、〇〇〇
燐寸	一箱	、九〇〇
カニヤ	一ビン	三、〇〇〇
粟	一キロ	三、八〇〇
ケージョ	一個	二、〇〇〇

●殺人騒ぎ

警察副署長と査公は重傷

七日朝ノロエステ線アバヤ駅で當地警察の悪漢アルシデス・パンクレオンは同地警察副署長と逃査に街角で御愛だ！

とやられた処、反って短銃を打放ち其査公と副署長に重傷を負はせ、自分は又お役人に打たれて其場で死んでしまった由。　其日はアバヤの町大騒ぎであったと。

●徴兵延期者の數

一月七日迄の

バウル領事館支拂で取扱って居る在留証明願は昨年十二月より今年一月七日迄の下附數二千四百八十八件である由二月末迄には三千を突破しようと云ふ豫想とか。

●本年の諸作柄

ノロエステ方面

繭作、乾燥のためとクリケリ発生のため被害あり、收穫は此度豫想外の僅少なるべく今の處本年の五分の一收穫高と噂されて居る。

珈琲。　花時と結實時と打

●行衛が知れた

滝沢仁三郎氏

先月に行衛不明と報じた鐘紡會社の滝沢仁三郎氏の在りか……は某氏の手紙の文句をさし、乱した処、コーダ

「滝沢君忽然白浪をおこしケパウン着前三四日行方不明」と云ふのであった。

喧嘩して叩き殺される様な男じやなし、酔拂って浪に漂われる間抜でもなし、仁三郎君だ……と思った。

矢張彼は鎌倉丸甲板上で又神しながらかな事に一寸フンがイしながら久振の郷国へと印度洋上を辷って居るらしい。

●ボテキン開業やら移轉やら

ノロエステ線プロミッソン駅上塚殖民地・上塚氏宅前のボテキン主藤井政人氏は五年前の眞裸から一財産造ってプロミッソン駅街に大きな練を家を建築旧臘廿一日それに引こした。後釜のボテキンには肥後屋の伊藤　登氏が駅から這入った由。

●菊池公雄氏死す

カンポスジョルトンで

二項はバウル市の沢尾ホテルに食客たり・最近はノロエステ線プロミッソン驛の開崎氏に雇れ倉庫の方でマメくしく働いていた菊池公雄氏は小男とゐふので有名であったが先年肺を冒され、カンポスジョルトンに轉地中の処、去る月五日死去の電報をバウル市の沖山心平氏が受取った由。　氏は東京府下八丈島の生れであった。

●測量技師　野村秀吉氏の

リンス入り

技師であった野村秀吉氏は旧臘海興の残務たるアニウマス新地の測量を完し助手連元設行氏同伴、去る三十日いよく／ノロエステ線リンス市に移轉した。　以後專心邦人の測量依頼に應ずる由。

●輪湖俊午郎氏

愈アラサツバ　移轉

長野土地組合の購買した北西線ルサンピーラ駅の同縣人殖民地支配人たる輪湖俊午郎はバウル市ノロエステ街十三番地の北西拓殖會社をいよく引払ひ来る十五日頃アラサツバ駅へ移轉する由。

●新らしき芽萠え

モー出るくと噂してから七月が過ぎる去る一月八日午前六時三十分古関夫人八重子さんは初産に頑丈な男の兒を分娩、母子共健全である由お芽出度い。

知人仲間では男の子だらうと噂し合って居たのが当救切られてしまった。　こんな褒切はいつてもいゝんだらふと。

●ノロエステ銀行の宣傳

邦人間に

ノロエステ銀行は邦人の経済的に注目し出し、先来々的宣傳中の処旧臘より明穂實氏を傭ひノロエステ方面に出張させ各駅の日本人集團地に到り宣傳をさせて居る。　相当の担保品を持って居るものには貸出す由。

明穂氏の宣傳の結果百コント位は此度邦人に貸出した由。　リンス駅でもコルゴアゾールの鈎木殖民地では小学校前に榛葉彦平氏が旧臘愈ボテキンを開店し大繁昌中だそうな。

●大評判の日本人

旧臘、栗津金六氏の案内でリオ首府下院議員オリベーラボテリオ氏が在伯日本人狀態視察にのぼった。　其観察談がジョルナルダノイテ紙上に掲げてある（ゼルマニア型ページ大に）。

押寫眞三ツ・タアップ小學校生徒、アンディアス日本家屋・レストロ日本村風景と。

観察談は實に勞働日本人ラッサアマレーロ萬歳である。　私はセントラル線の力サバ附近に日本人が二百七十家族居て五年間の豊農業收穫（80:000:000$000 即ち二年平均40:000:000$000）と訊されて居たには驚かされた。　これに因れば一家族二千收入私の計算によれば百二十五コントスになる。　大奇蹟なる收入と書いてあるが、斯くの如き莫迦くしい計算（記事中唯一の）で實に明なる伯人をウナツかせる事が出来るであうか。

●邦人小學校先生の口あり

ノロエステ線プ・アルベス駅眞のがサ殖民地小學校では、是迫竹内秀一氏が教べんをとって居た処、近々竹内氏は自家の買入土地に引越し、跡をとるのでその後釜に人の適当なる先生を探して居る、月給は二百三十ミル位に体なる事、同殖民地の會が保証する由。　希望者はないか（本社にお問合せあっても）（先方へ通じ兼ます）

●暑いく

バウル市も

昨日は三四日降りそうな空の峰ばかし見せて居りつゝ降らずでバウル市も葉し暑い事お話にならぬ、領事館の寒暖計を覗くと午後三時半華氏にて直すと八十七度八だ。　此位なり暑いよりも蒸すんだ。　暑いよりも蒸すんだ。

●一眼を失ふ

病疾のため

色男榎木常孝氏は先来眼疾にかゝりソロカバナ線マニンリ駅より出聖療養中の処養生叶はず、悪性病疾のため遂に左眼の明を全く失くしてしまった。

PHARMACIA NORDESTE
A PREFERIDA DELA HONRADA CLIENTIA JAPONEZA
日本人顧客諸君の選擇の名譽は當藥局に落つく待たる
バウル
ファルマシア・ノルデスチ

永具　榎木商

かしま本家　聖市バウル・イタニヤンガ街　榎本芳助

FAZENDA "RIBEIRÃO DO VEADO"
PROXIMO ESTAÇÃO CANDIDO MOTTA
LINHA SOROCABANA

珈琲拂下地帶五千アルケーレス
將来唯一のコヒ地帶として注目さるパラナ河北部カンデイドモッタ驛より三十九基米"リベイロン・ドベアード"一万アルケーレスの内第一期一アルケール二百七十針

▼土地代
御照會は産記いづれにても可なり
アラニアラ線カタンヂバ驛郵函八四三
氏原彦馬

ソロカバナ線アバレー驛郵函四四
西山鐵次郎

イグアペ植民地州政府駐在官
弁護士ドクトルガストザントスモレイラ
Dr. Gastão Santos Moreira
Sala 50 4o andar
São Paulo

明穂梅吉

雑貨販賣　綿花雑穀買賣
平山商店
ソロカバナ線　サンタクルズリオパルド

雑貨販賣　農産物仲買
上田商店
プ・アルベス驛　上田留治

ペンナ驛　カフェランヂア町
河尾ホテル
河尾利一

御菓子
キゼイベンゴロバール
リンス　中川美彌吉　渡邊四郎共同

御旅館　穀類仲買
オリエンタール
プロミッソン驛　青木平田共同

バウル・ソロカバナ驛眞上
九州旅館
加來晋一

農産物仲買
岡島仁郎
セルケーラ・セサル驛　カイシヤ一九

出張撮影
西寫眞館
リンス市　西金藏

旅館
上地
聖市ボニータ街一二
和洋料理一切

CASA SANTINHO
R. B. DE CARVALHO 32 a 83
BAURÚ
バウル本店三ウースタ支店八三
旅行用具　馬具・帽子　等一切
カーザンチーヨ

旅館
常盤
聖市コンデ街四二番
石原桂造

削節　鹽辛　干魚
K
三共商會
サントス市　セザドル・ダクス街五三　カイシヤ　三八

聖市ルアカンタレイラ
御旅館
松山三太郎

日本人の家庭に是非必要な
醤油
はらじ山印に限ります
平野植民地　藤澤豊次郎

自動車の設備あり　自轉車
太陽旅館
プロミッソン駅第九番
杉本法雄

聖市ルアコンデ五〇
中山旅館
中山忠太郎

聖市ルアルタード街一六
廣島屋
小川源右衛門

土地賣買のお世話もいたします
ホテル
主館　國崎重次
澤尾ホテル
ソロカバナ線アバレー驛眞前
澤尾　誠七

バウル驛眞前（旧オテルプログレッソ）
澤尾ホテル
澤尾　誠七

バウル驛直ぐ前
日本旅館
神山心平

郵便物集配所
藤山旅館
リンス　藤山鶴馬

雑貨　ペンナ驛
おつげ仲買
右田農彦

プロミッソン驛
鍛冶屋
木本政造

測量、製圖、道路工事、設計其他土木に関する一切の御求に應じます
土木技師　野村秀吉
リンス・郵函七

産前産後婦人の道薬切の薬三
寶母散　伯國代理店
中將湯
命の母
中矢商店
聖市コンデ街九

其他日本雑貨類一切ありります